

Ⅱ 令和6年度 学校経営方針

* 別紙「令和6年度 石山中学校 教育ビジョン」参照

令和6年4月1日

はじめに

当校は、教育目標を令和2年度にリニューアルし、新生石山中学校としてスタートして5年目を迎えます。また、同時に、当中学校区の絆を深め、子どもたちを協働して育むために開催してきた「石山の教育を語る会」により、「石山地区で育みたい子ども像」が策定され、令和5年度からは、学校運営協議会でも共有しています。この間、生徒一人一人の自他を思いやり、向上しようとする意欲と取組に寄り添い、支援を惜しまない教職員・保護者・地域の方々の協働・努力の積み重ねが相まって、落ち着いた中に活力ある教育がチームとして展開できるようになってきました。さらに、地域ぐるみのあいさつ運動や清掃活動の実施など、小中、関係機関、地域連携の具体も進み、「地域と共に歩む学校」を着実に推進しています。

1 教育目標「自立 共生 挑戦」

3つの「喜び」をつくる

- ・「自立」・・・自尊心（自己肯定感＋自己有用感）を高め自立する生徒
→自分には価値があると思える喜び（人の役に立つ経験を積み重ねる）
- ・「共生」・・・コミュニケーション力を高め共生社会に参加、参画する生徒
→友だちをつくる喜び（人のいいところ見付けて伝える）
- ・「挑戦」・・・新たな価値の創造や課題解決に向けて挑戦する生徒
→できることが増えていく喜び（自立と共生をベースに勇気をふるう）

2 学校理念

「喜び」を感じるには能力がいる。学校は、「喜ぶ力」を育てる場である。

喜びをつなぐ学校

あなたの喜びが、だれかの喜びにつながるように、
今日の喜びが、未来の喜びにつながるように、
学校で学んだひとつひとつの喜びが、「生きる力」となって、明日に、その先の人生の喜びにつながるように、喜びをつなぎます。

「生徒も職員も、みんながそれぞれで、別々」は前提です。その上で、教育活動を展開していく際に、私たちは、何が、どこが一つになれるのか、何で一つになったら嬉しいのかを考えたとき、ルールや規則をトップダウン的に示すよりも、「それぞれ感」を残しつつ「なにか小さなこと」で手をつなぐくらいがちょうどいいと思っています。それが、学校の内外にある嬉しいこと、つまりは「喜び」です。「喜び」を見つけ、分かち合いながら、そして、つなぎながらチームとして一つになっていくことが最高だと考えています。この学校理念達成のために、私たちが意識することは次の5つです。

- 「すごい!」と言われる仕事よりも、「ありがとう」と喜ばれる仕事をしていく。
 - 喜びは「成長」や「達成感」、そして、努力したことが周りの人に評価されること。昨日できなかったことが今日できるようになる。人はそれが一番嬉しい。子どもの「成長」が私たちにとっての一番の喜びである。
 - 何が喜ばれる仕事なのかを感じながら働くことが、のびのびとした自分たちの成長の道でもある。
 - 学校は「喜び」をつなぐことができる場。学校内外にある「喜び」を見付け、共感する。
 - 学校が大切にしている価値（喜び）を保護者や地域に伝えて、学校の価値を共に創り、一緒に育て、高めてくれるような「協力者」を増やしていく。
- この「喜びをつなぐ」という理念を教職員全員と共有し、教育という仕事の魅力を高めながら、喜ぶ人の数を増やし、喜びあふれる学校を築いていきます。

3 令和6年度の重点

(1) これまでの成果と実態

石山中伝統の「AKG」という行動規範が定着してきました。

- A：（明るく） 笑顔でのあいさつ 相手への気配り
- K：（きれいで） 清潔な身だしなみと環境
- G：（元気な学校と人） 新しいことに挑戦するためのエネルギー

「AKG」は、教育目標「自立 共生 挑戦」の達成に向けた一貫性のある行動を導くルールであり、今の石山中を支える強い土台になっています。生徒が「AKG」でいるためには、生活が安定していなければなりません。つまり、規則正しい生活習慣が必要不可欠です。昨年度石山中では、この指導に特に力を入れてやってきました。

(2) 問題点と解決すべき課題

しかし、メンタル面の理由から、日常的に「AKG」でいることが難しい生徒がいます。（不登校傾向、「学校が楽しくない」、ネット依存への逃避、家庭環境の負担など）

そこで、メンタルの不安や緊張をゼロにすることがゴールではなく、不安や嫌なことがある状態でも「AKG」でいられる生徒の育成を目指します。

(3) 今年度の方向性と方策

①「AKG」を生み出す生徒指導

生徒一人一人の「レジリエンス」を高めることに学校全体で取り組みます。

- ・プロジェクトチームをつくる
- ・職員の勉強会（レジリエンスって何？ まずは職員が知って意識する）
- ・生徒への授業で広げる（教育課程に入れる 道徳、学活など）
- ・生徒会の取組で強める（本部、保健委員会）

② 学校部活動縮小に向けた準備

これまで学校部活動が担っていた教育効果（特にスポーツマンシップの育成）をできる限り止めないようにします。

- ・学校行事の価値付け（運動会、柏葉祭の準備段階での工夫）
- ・地域連携を活用した縦割りの活動を新設

③「振り返り」活動を意識した授業づくり

真剣な授業態度を「学力テストの点数」に反映させます。

- ・研究主題の見直し（「振り返り」の工夫）